⑺　森林の区分に応じた路網整備の考え方

森林の整備及び保全、木材の生産及び流通の効率化を図るには、路網整備が不可欠であり、「指向する森林の状態」に応じた適切な路網整備を進める。基本的には、人工林において重点的に路網を整備し、自然の推移に委ねる天然林においては既存路網を維持していく。その際、林業機械の開発や実装の進展状況等を踏まえつつ、傾斜区分別の作業システムに応じ、林道と森林作業道を適切に組み合わせて整備する。具体的には、緩傾斜地では車両系、中傾斜地では車両系又は架線系、急傾斜地や急峻（しゅん）地では架線系を前提に林道を基幹とした路網の整備を推進する。

⑸　森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

森林の有する多面的機能の発揮に関する目標は、第１に掲げた基本的な方針を踏まえ、第３に掲げる施策の適切な実施により、各般の課題が解決された場合に実現可能なものとして、第１表のとおりとする。

第１表　森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

	令和７年（現況）	目標とする森林の状態		
		令和12年	令和17年	令和27年
森林面積（万ha）				
人工林	1,020	1,010	1,000	980
天然林	1,490	1,500	1,510	1,530
うち利活用等により機能の維持増進を図る天然林	110	130	150	190
合　計	2,500	2,500	2,500	2,500
総蓄積（百万㎥）	9,940	10,420	10,810	11,410
１ha当たり蓄積（㎥／ha）	398	417	432	456
総成長量（百万㎥／年）	128	115	103	84
１ha当たり成長量（㎥／ha年）	5.1	4.6	4.1	3.4

（参考）

○指向する森林の状態　（単位：万ha）

人工林	天然林		合計
		うち利活用等により機能の維持増進を図る天然林	
630	1,870	520	2,500

注１：「人工林」は、主として植栽又は人工下種により成立している森林で伐採跡地を含み、「天然林」は、主として種子の自然散布による更新、ぼう芽による更新等の天然更新により成立している森林で竹林及び未立木地を含む。

２：「利活用等により機能の維持増進を図る天然林」は、適切な整備により利活用等を促進し、多面的機能の維持増進を図る里山林等の天然林で、現況は、天然林のうち人為により成立しているものを集計している。

３：目標とする森林の状態及び指向する森林の状態は、令和７年を基準として算出している。

４：令和７年の値は、令和７年４月１日の数値で、面積は森林資源現況調査、総蓄積及び総成長量は森林生態系多様性基礎調査[注]の結果から推計している。

注　現地における実測により林況や植物種の多様性等の持続可能な森林経営の基準・指標に係るデータを継続的に把握する全国レベルの森林調査（National Forest Inventory：NFI）をいう。

５：森林面積は、十万ha単位で四捨五入しているため、内訳と計とは一致しない場合がある。

３　林産物の供給及び利用に関する目標

⑴　目標の基本的な考え方

林業の持続的かつ健全な発展並びにそれを通じた森林の適正な整備及び保全を図るためには、国産材の供給や利用を促進していく必要があることから、木材供給量及び木材利用量を明らかとする。

⑵　目標の定め方

木材供給量の目標については、期待する機能の発揮に向けた森林の整備及び保全が行われた場合に将来の利用量に対応して供給し得る木材の量として、第２表のとおりとする。木材利用量の目標については、今後の需要動向を見通した上で、我が国の林業・木材産業の競争力強化や木材需要の創出等が適切に進められた場合に実現可能な用途別の木材利用量として、第３表のとおりとする。

第２表　木材供給量の目標　（単位：百万㎥）

	（実績）令和６年	（目標）令和12年	（目標）令和17年
木材供給量	35	40	42

第３表　用途別の木材利用量の目標　（単位：百万㎥）

	総需要量			利用量		
	（実績）令和６年	（見通し）令和12年	（見通し）令和17年	（実績）令和６年	（目標）令和12年	（目標）令和17年
建築用材等　計	32	34	35	18	23	26
製材用材	25	26	26	14	18	20
合板用材	8	8	9	4	5	6
非建築用材等　計	50	50	50	17	17	17
パルプ・チップ用材等	27	26	26	4	4	4
燃料材	23	24	24	12	13	13
合　計	82	85	85	35	40	42

注１：用途別の利用量は、国産材に係るものである。

２：各用途には輸出を含む。

３：「パルプ・チップ用材等」には、しいたけ原木等を含む。

４：「燃料材」とは、ペレット、薪、炭、燃料用チップである。

５：百万㎥単位で四捨五入しているため、内訳と計とは一致しない場合がある。